



提案型協働事業 事例集

— 姫路市 —

はじめに

姫路市では、市民一人ひとりが主役の市政という基本的な考えのもと、市民参画と協働のまちづくりを進めています。こうした取り組みの一つとして、地域社会の課題解決に向けた行政との協働事業である“姫路市提案型協働事業”を実施しています。

この事業は、市民活動団体の持つ特性を活かした市民サービスを提供するため、市民活動団体から協働事業の提案を募り、公益性や実効性を審査した上で、採用団体に対して補助を行う事業です。

これまで、平成18年度のモデル実施及びその後の本格実施を経て、平成23年度末現在で延べ68件の提案があり、そのうち44件の事業を採択し、取り組みが行われました。

この度、これまでに蓄積されたノウハウなどを有効に活用し、地域社会の課題解決に向けて取り組んでいくため、過去に実施された取り組み（平成19年度から平成23年度まで）を紹介し、市民活動団体の活動の参考にしていただけるよう、事例集を取りまとめました。

市民活動団体をはじめ、多くの皆さんに活用いただければ幸いです。

提案型協働事業事例集

目 次

1 提案型協働事業実施状況

事業概要	2
平成18年度提案型協働事業の実施状況	3
平成19年度提案型協働事業の実施状況	4
平成20年度提案型協働事業の実施状況	5
平成21年度提案型協働事業の実施状況	6
平成22年度提案型協働事業の実施状況	7
平成23年度提案型協働事業の実施状況	8

2 各提案事業の概要

平成19年度

歴史的文化遺産「見野の郷」おもてなし事業	10
ご当地名物「姫路おでん」の地域ブランド定着・普及事業	11
車椅子バスケットボール教室と障がい者スポーツの啓発事業	12
笑顔のまちづくりフォーラムの開催	13
芸術文化振興 文化財活用プロジェクト in 船場御坊	14
新しい姫路駅前に関する市民参画の場づくり	15

平成20年度

黒田の殿様烏絵展&黒田24騎刀剣・武具甲冑展	16
ひめじ田宴アート 収穫祭	17
ウェルカム船場城西歴史地区	18
ふれあいと共生の「見野の郷」魅力アップ事業	19
姫路市民活動アドバイザー派遣モデル事業	20
お菊虫プロジェクト	21
「笑いのまちをめざして～笑いを科学する」 フォーラムの開催	22
車椅子バスケットボールを含む障がい者スポーツの啓発事業	23

平成21年度

姫路古墳ロード花 full 郷事業	24
お城まつり 60 周年記念ドキュメンタリー作品の 制作および上映	25
若者らの自立を考える交流会	26
「桜山公園」未整備エリアの荒廃竹林整備	27
ひめじ田宴アート2009	28
こどもたちが紡ぐ“未来のまちうち物語”	29
ひめフォト	30
「もうひとつのひめじ」発信ワークショップ	31

平成22年度

生涯現役体操（ガンバルンバ体操）啓発応援事業	32
姫路古墳ロードを巡る健康ウォーキング事業	33
播磨の黒田武士24騎里帰りパレード	34
ひめじ田宴アート2010	35
「地域サロン」づくり講座	36
障がい者スポーツ参加型ボランティア市民講座	37
姫路市市民活動きっかけづくりトライアル事業	38
荒廃した里山・竹林の保全整備と啓蒙活動事業	39
ひめままがつくる姫路らしさ満載	
「駅前サテライトミュージアム」社会実験	40
姫路城周辺の町並みとひとの魅力を伝える	
「短編ドキュメンタリー」の制作と上映	41

平成23年度

老若男女 会話と笑顔で散歩をしよう	42
地域とつくる！学生ボラターン研修事業	43
私も「B-1 グランプリ in 姫路」に行きたいなあ！	44
生涯現役体操（ガンバルンバ体操）普及事業	45
ひめじ“こみせまち”活性化プロジェクト	46
荒廃竹林整備で発生する伐採竹を利活用する事業	47
地域サロン実践モデル事業	48

3 索引

実施団体別事業名索引	50
テーマ別事業名索引	51

1 提案型協働事業 実施状況

事業概要

各年度の提案型協働事業の実施状況
(平成18年度 ～ 平成23年度)

事業概要

1 提案型協働事業とは

姫路市では、市民一人ひとりが主役の市政という基本的な考えのもと、市民参画と協働のまちづくりを進めています。こうした取り組みの一つとして、地域や社会の課題解決に向けた行政との協働事業を、市民の視点から、市民公益活動団体の皆さんに提案していただき、その提案について公益性や実効性などを客観的に審査し、その事業の対象経費について補助を実施するものです。

2 事業の枠組み

(1) 助成対象事業

姫路市の様々な分野における社会的及び地域的な課題の解決に取り組む事業で次に掲げるもののうち、市長が適当と認めた事業

① テーマ設定事業

姫路市が設定したテーマに基づき、助成対象団体が提案した事業

② 自由テーマ事業

助成対象団体が自由なテーマで提案した事業

③ 市民活動講座事業

市民公益活動の知識の取得や参加の促進を目的としたテーマに基づき、助成対象団体が提案した事業

(2) 助成対象団体

姫路市内に活動拠点を有する次のいずれかに該当する団体

① 不特定多数の利益の増進を目的とする公益活動を行う非営利の任意団体

② 特定非営利活動法人（NPO法人）

③ 前2号に掲げる団体の共同体

(3) 助成対象経費

助成対象事業に要する経費のうち市長が必要と認める経費に相当する額

（助成限度額）	テーマ設定事業	50万円
	自由テーマ事業	50万円
	市民活動講座事業	25万円

※ 10万円以上の事業に限る

(4) 募集・審査等

募集：毎年4月中旬から5月下旬に実施

※ 事前に関係課と調整が必要

審査：審査会において事業提案説明会（プレゼンテーション）を行い、委員の意見を踏まえ、市長が事業認定を行う

平成18年度提案型協働事業の実施状況

1 実施状況

(1) 事業募集

- 募集期間 平成18年9月15日（金）～平成18年10月10日（火）
- 応募件数 10件
（内訳）テーマ設定型：観光1件、生涯現役1件、健康2件
自由テーマ型：6件

(2) 第1次審査（書類審査）

- 書類の不備等について事務局が審査
- 審査通過件数 8件
（内訳）テーマ設定型：観光1件、生涯現役1件、健康2件
自由テーマ型：4件

(3) 第2次審査（プレゼンテーションによる審査）

- 開催日時 平成18年10月29日（日）14:00～
- 会場 じばさんびる 501会議室
- 参加団体 上記第1次審査通過団体
- 審査委員 姫路市市民活動推進懇話会専門部会委員 4名

2 認定事業

- 認定件数 5件
（内訳）テーマ設定型：観光1件、生涯現役1件
自由テーマ型：3件

	テーマ	提案事業名	提案団体	掲載頁
1	観 光	船場城西歴史地区ぶらぶら（史跡、老舗、伝統工芸を訪ねて）	歴史と出会えるまちづくり船場城西の会	—
2	生 涯 現 役	「生涯現役社会」市民講座（基礎コース）	(特)コムサロン21	—
3	自 由	ドギーバッグを活用した動物愛護精神の涵養及び特色ある店舗活動の展開	(特)アニマルメリーランド	—
4	自 由	大道芸を利用したおもてなしの町づくりプロジェクト	(特)姫路コンベンションサポート	—
5	自 由	盲導犬チャリティーフェスティバル	子どもミュージカル劇団 FUNKY キッズ	—

※ 平成18年度は、モデル実施のため事例を掲載していません。

平成19年度提案型協働事業の実施状況

1 実施状況

(1) 事業募集

- 募集期間 平成19年6月1日(金)～平成19年7月17日(火)
- 応募件数 9件
(内訳) テーマ設定型：観光2件、生涯学習1件
自由テーマ型：6件

(2) 第1次審査(書類審査)

- 書類の不備等について事務局が審査
- 審査通過件数 9件
(内訳) テーマ設定型：観光2件、生涯学習1件
自由テーマ型：6件

(3) 第2次審査(プレゼンテーションによる審査)

- 開催日時 平成19年7月29日(日) 13:30～
- 会場 市民会館 5階 第1教室
- 参加団体 上記第1次審査通過団体
- 審査委員 姫路市市民活動推進懇話会専門部会委員 4名(当日参加3名)

2 実施事業

- 認定件数 6件
(内訳) テーマ設定型：観光2件
自由テーマ型：4件

	テーマ	提案事業名	提案団体	掲載頁
1	観光	歴史的文化遺産「見野の郷」おもてなし事業	見野古墳群保存会	10
2	観光	ご当地名物「姫路おでん」の地域ブランド定着・普及事業	(特)コムサロン21	11
3	自由	車椅子バスケットボール教室と障がい者スポーツの啓発事業	チームWeB	12
4	自由	笑顔のまちづくりフォーラムの開催	(特)姫路コンベンションサポート	13
5	自由	芸術文化振興 文化財活用プロジェクト in 船場御坊	歴史と出会えるまちづくり船場城西の会	14
6	自由	新しい姫路駅前に関する市民参画の場づくり	(特)スローソサエティ協会	15

平成20年度提案型協働事業の実施状況

1 実施状況

(1) 事業募集

- 募集期間 平成20年5月7日(水)～平成20年6月13日(金)
- 応募件数 13件
(内訳) テーマ設定型：観光2件、観光・国際化2件
自由テーマ型：9件

(2) 第1次審査(書類審査)

- 書類の不備等について事務局が審査
- 審査通過件数 13件
(内訳) テーマ設定型：観光2件、観光・国際化2件
自由テーマ型：9件

(3) 第2次審査(プレゼンテーションによる審査)

- 開催日時 平成20年6月28日(土) 12:45～
- 会場 市民会館 5階 第1教室
- 参加団体 上記第1次審査通過団体
- 審査委員 姫路市提案型協働事業審査会委員 4名

2 実施事業

- 認定件数 8件
(内訳) テーマ設定型：観光2件、観光・国際化1件
自由テーマ型：5件

	テーマ	提案事業名	提案団体	掲載頁
1	観光	黒田の殿様烏絵展&黒田24騎刀剣・武具甲冑展	播磨の黒田武士顕彰会	16
2	観光	ひめじ田宴アート 収穫祭	(特)ゆめさきプロジェクト	17
3	観光・国際化	ウェルカム船場城西歴史地区	歴史と出会えるまちづくり船場城西の会	18
4	自由	ふれあいと共生の「見野の郷」魅力アップ事業	見野古墳群保存会	19
5	自由	姫路市民活動アドバイザー派遣モデル事業	(特)コムサロン21	20
6	自由	お菊虫プロジェクト	姫路城下町街づくり協議会	21
7	自由	「笑いのまちをめざして～笑いを科学する」フォーラムの開催	(特)姫路コンベンションサポート	22
8	自由	車椅子バスケットボールを含む障がい者スポーツの啓発事業	チームWeB	23

平成21年度提案型協働事業の実施状況

1 実施状況

(1) 事業募集

- 募集期間 平成21年4月20日(月)～平成21年5月22日(金)
- 応募件数 13件
(内訳) テーマ設定型：姫路城3件、生涯現役0件
自由テーマ型：10件

(2) 第1次審査(書類審査)

- 書類の不備等について事務局が審査
- 審査通過件数 13件
(内訳) テーマ設定型：姫路城3件、生涯現役0件
自由テーマ型：10件

(3) 第2次審査(プレゼンテーションによる審査)

- 開催日時 平成21年5月31日(日) 12:45～
- 会場 市民会館 3階 第1会議室
- 参加団体 上記第1次審査通過団体
- 審査委員 姫路市提案型協働事業審査会委員 4名

2 実施事業

- 認定件数 8件
(内訳) テーマ設定型：姫路城1件、生涯現役0件
自由テーマ型：7件

	テーマ	提案事業名	提案団体	掲載頁
1	自由	姫路古墳ロード花 full 郷事業	姫路古墳ロード実行委員会	24
2	自由	お城まつり 60 周年記念ドキュメンタリー作品の制作および上映	Ecrans de Harima (エクリン・ドゥ・ハリマ)	25
3	自由	若者らの自立を考える交流会	情報センターふきのとう姫路	26
4	自由	「桜山公園」未整備エリアの荒廃竹林整備	太市の郷	27
5	姫路城	ひめじ田宴アート2009	(特)ゆめさきプロジェクト	28
6	自由	こどもたちが紡ぐ“未来のまちうち物語”	(特)スローソサエティ協会	29
7	自由	ひめフォト	(特)姫路コンベンションサポート	30
8	自由	「もうひとつのひめじ」発信ワークショップ	手ん子森	31

平成22年度提案型協働事業の実施状況

1 実施状況

(1) 事業募集

- 募集期間 平成22年4月20日(火)～平成22年5月20日(木)
- 応募件数 14件
(内訳) テーマ設定型：環境3件、福祉1件 自由テーマ型：8件
市民活動講座：2件

(2) 第1次審査(書類審査)

- 書類の不備等について事務局が審査
- 審査通過件数 14件
(内訳) テーマ設定型：環境3件、福祉1件 自由テーマ型：8件
市民活動講座：2件

(3) 第2次審査(プレゼンテーションによる審査)

- 開催日時 平成22年5月29日(土) 11:00～
- 会場 市民会館 5階 第2教室
- 参加団体 上記第1次審査通過団体
- 審査委員 姫路市提案型協働事業審査会委員 4名

2 実施事業

- 認定件数 10件
(内訳) テーマ設定型：環境1件、福祉1件 自由テーマ型：6件
市民活動講座：2件

	テーマ	提案事業名	提案団体	掲載頁
1	自由	生涯現役体操(ガンバルンバ体操)啓発応援事業	ガンバルンバ体操ひろめ隊	32
2	自由	姫路古墳ロードを巡る健康ウォーキング事業	姫路古墳ロード実行委員会	33
3	自由	播磨の黒田武士24騎里帰りパレード	播磨の黒田武士顕彰会	34
4	自由	ひめじ田宴アート2010	(特)ゆめさきプロジェクト	35
5	福祉	「地域サロン」づくり講座	(特)はなのいえ	36
6	市民活動	障がい者スポーツ参加型ボランティア市民講座	チームWeB	37
7	市民活動	姫路市市民活動きっかけづくりトライアル事業	(特)コムサロン21	38
8	環境	荒廃した里山・竹林の保全整備と啓蒙活動事業	太市の郷	39
9	自由	ひめまがつくる姫路らしさ満載「駅前サテライトミュージアム」社会実験	(特)スローソサエティ協会	40
10	自由	姫路城周辺の町並みとひとの魅力を伝える「短編ドキュメンタリー」の制作と上映	Ecrans de Harima (エクリン・ドゥ・ハリマ)	41

平成23年度提案型協働事業の実施状況

1 実施状況

(1) 事業募集

- 募集期間 平成23年4月18日（月）～平成23年5月20日（金）
- 応募件数 9件
（内訳）テーマ設定型：地産地消0件、地域福祉3件、市民活動1件
自由テーマ型：5件

(2) 第1次審査（書類審査）

- 書類の不備等について事務局が審査
- 審査通過件数 9件
（内訳）テーマ設定型：地産地消0件、地域福祉3件、市民活動1件
自由テーマ型：5件

(3) 第2次審査（プレゼンテーションによる審査）

- 開催日時 平成23年6月4日（土）12：50～
- 会場 市民会館 5階 第2教室
- 参加団体 上記第1次審査通過団体
- 審査委員 姫路市提案型協働事業審査会委員 4名

2 実施事業

- 認定件数 7件
（内訳）テーマ設定型：地産地消0件、地域福祉3件、市民活動1件
自由テーマ型：3件

	テーマ	提案事業名	提案団体	掲載頁
1	地 域 福 祉	老若男女 会話と笑顔で散歩をしよう	(特)兵庫県若者らの自立を考える連絡会	42
2	市 民 活 動	地域とつくる！学生ボラターン研修事業	(特)コムサロン21	43
3	自 由	私も「B-1 グランプリ in 姫路」に行きたいなあ！	(特)姫路地区手をつなぐ育成会	44
4	地 域 福 祉	生涯現役体操（ガンバルンバ体操）普及事業	ガンバルンバ体操ひろめ隊	45
5	自 由	ひめじ“こみせまち”活性化プロジェクト	ひめじRe-店舗計画	46
6	自 由	荒廃竹林整備で発生する伐採竹を活用する事業	太市の郷	47
7	地 域 福 祉	地域サロン実践モデル事業	(特)はなのいえ	48

2 各提案事業の概要



歴史的文化遺産「見野の郷」おもてなし事業

観 光

（実施年度） 平成19年度

（実施団体） 見野古墳群保存会

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 観光交流推進室
教育委員会 生涯学習部 文化財課

（事業の目的）

姫路市指定重要有形文化財であり、地域の宝である見野古墳群の保存、継承活動を行うことにより、見野の郷の環境を整備し、姫路の新しい魅力の発見につなげるもの。

（期待される効果又は達成目標）

見野古墳群を訪れる人が増えることにより、地域住民は喜びと生きがいを得ることとなる。観光客にもっと来てもらうために地域住民はさらに努力し、その結果、地域に活力が生まれる。このことが、地域のまちづくりにつながり、姫路の観光の新名所となっていくと考える。

また、子どもたちに古墳が地域の誇りであることを自覚させ、古墳に愛着を持ってもらい、やがては古墳を保存・継承するようにしていきたい。

（事業概要）

見野古墳群保存会及び地域住民が見野の郷交流館と協働して次の活動を行う。

- 1 見野古墳群和光公園の環境づくり
- 2 魅力ある観光コースの実現
- 3 地域夢プランとの連携
- 4 山桜オーナー制度の実施
- 5 歴史や教育のための資料づくり
- 6 発掘調査に対する全面的協力
- 7 清掃活動
- 8 見学会
- 9 広報・宣伝

（事業総括・感想）

見野古墳群の清掃（竹林の伐採、草刈等）及び団体見学者の古墳案内を随時行うとともに、より多くの見学者に来ていただくため、古墳案内看板を4箇所に設置し、古墳祭りも実施した。



ご当地名物「姫路おでん」の

観 光

地域ブランド定着・普及事業

(実施年度) 平成19年度

(実施団体) 特定非営利活動法人 コムサロン21

(市の担当部署〈協働先〉) 農政経済局 観光交流推進室

(事業の目的)

生姜醤油をおでんに付けて食べるという食習慣が注目された「姫路おでん」。
これに関連する生産者や流通・販売を担う企業などが連携した活動のできるネットワークを構築し、今後の地域ブランドとして確立するための育成や普及活動を行うことにより、姫路の新しい食の観光名物づくりに貢献することを目的とする。

(期待される効果又は達成目標)

「姫路おでん」に関連する生産者や流通・販売を担う企業などが連携した活動のできるネットワークを構築し、PR活動の実施主体ができることにより、姫路市内外での「姫路おでん」のキャンペーン等を実施する機会に、お互い連携したスムーズなPR活動を行うことができる。

継続したPR活動が、より効果的に広範囲に展開することになれば、ご当地グルメ、すなわち姫路の食の観光資源として「姫路おでん」が一過性のものでなく、継続認知され、定着化されていく効果が期待できる。

(事業概要)

- 1 ネットワークの構築支援及び運営
「姫路おでん」を姫路の食の名物として全国にPRし、しいては食の観光として幅広い経済効果をもたらすことを目的とした「姫路おでん普及委員会」の正式発足と運営を行う。
- 2 「姫路おでん」のPR活動
兵庫のご当地グルメ等が集まるような地域イベント等に出店参加し、普及活動を行う。

(事業総括・感想)

今回の事業により、姫路おでん普及委員会を設置・発足できたことに大変意義があった。

おでん店は、料飲組合などに参加するだけの経営基盤が少なく、また、各食品企業や生産者もPR活動の主体となる団体ではないので、「姫路おでん」が有名になっても、それをPR・普及していく組織がなかった。この会ができたことにより、マスコミ等の取材対応やPR活動を行うことにより、より効果的な広報活動ができた。

また、ネットワークの構築の結果として、生産者と加工業者の連携も強化できた。また、新製品の開発のきっかけとなり、いくつかの「姫路おでん」に関する新製品もできた。

半年間の活動の結果、姫路菓子博期間中には、「姫路おでん屋台ガーデン」というご当地グルメの場の提供をすることになったり、将来的に「姫路おでん」の地域ブランド力を活かして、組合化を検討することに至っている。

車椅子バスケットボール教室と

自 由

障がい者スポーツの啓発事業

（実施年度） 平成19年度

（実施団体） チームWeB

（市の担当部署〈協働先〉） 市民局 生きがい推進部 スポーツ振興課
教育委員会 学校教育部 学校指導課

（事業の目的）

社会における様々な違いを日常の中で自然に受け止め、人間の生を大切にし、相手を尊ぶ姿勢を車椅子バスケットボールを通じて体験すること、また、障がいを持った選手たちが、スポーツを通じて社会と関わりを持ちながら自立し成長していく機会を提供することを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

- 1 障がい者スポーツの認知の拡大
- 2 障がいを持った人たちの社会参加
- 3 多感な小・中・高校生が、障がい者スポーツを通して社会との接点を持つことにより、人間の尊厳・自由のもつ意味や、夢と目的の必要性などの体感
- 4 若年・青年層が本事業に参加することでボランティア意識が芽生え、社会へ自ら考え行動して参加すること
- 5 平成19年度 体験者数2,500人を目指す。

（事業概要）

- 1 車椅子バスケットボール教室
毎月1回、延べ12回開催
- 2 出張体験講座
年間25回、延べ2,500人体験を目標
※ 中播磨全域を対象とする。

（事業総括・感想）

車椅子バスケットボールを媒介とした障がい者スポーツの啓発を実施した。

- ・ 姫路市教育委員会と協働し、先生を対象として体験会を実施
- ・ 車椅子バスケットボール教室を月1回開催。延べ8回、約120名参加。
- ・ 小・中・高校へ出張体験対話講座は、延べ29回、約2,700名参加。



笑顔のまちづくりフォーラムの開催

自 由

（実施年度） 平成19年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 姫路コンベンションサポート

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 商工部 産業振興課
農政経済局 観光交流推進室

（事業の目的）

今年度は「笑力」をテーマに、まちを盛り上げる人の育成に取り組む。姫路市内だけではなく全国から参加者を募集する。講師を招きフォーラムを開催するとともに、分科会なども開催する。

（期待される効果又は達成目標）

様々な分野で活躍する講師を招き、講演会・分科会を開催し「笑顔が作るおもてなしのまち」を推進する。

来年開催される全国菓子大博覧会を視野に入れ、商店街も含めた市民の啓発の場として、また他都市からも参加者を募った交流の場としても活用したい。

（事業概要）

笑顔のまちづくりフォーラムの開催

- 1 開催日 平成20年2月10日、11日
- 2 場 所 イーグレひめじ あいめっせホール、姫路文学館
- 3 内 容 基調講演、分科会、交流会、市内視察

（事業総括・感想）

「笑顔が作るおもてなしのまち」をテーマに様々な分野で活躍する講師を招き、講演会と意見交換会を開催した。来年に開催される全国菓子大博覧会を視野に入れ、商店街も含めた市民の啓発の場として、また他都市からも参加者を募った交流の場として活用した。

募集については、12月に案内文を制作して、講師の先生方のネットワークを通じて全国から参加者を募集した。

その結果、フォーラムへは199名、交流会へは145名（いずれも招待者含む）が、北は釧路から、南は沖縄まで多くの方々が参加した。



芸術文化振興 文化財活用プロジェクト

自由

in 船場御坊

（実施年度） 平成19年度

（実施団体） 歴史と出会えるまちづくり船場城西の会

（市の担当部署〈協働先〉） 市民局 市民参画部 市民活動推進課
教育委員会 生涯学習部 文化財課

（事業の目的）

姫路市指定文化財の船場本徳寺（船場御坊）本堂を会場に、兵庫芸術文化センター管弦楽団の客演を得て、地域の小中学校、高等学校、一般市民の音楽の発表と多世代交流を行い、行在所や美術品の見学と共に、文化芸術の振興を図る。

また、市民に文化財の魅力を感じる機会をつくり、文化財保護への機運を高めることを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

兵庫芸術文化センター管弦楽団は、音楽を通じた県民との交流を活動目的に加えており、市民の身近な文化財において、プロのクラシックに出会う機会を得ることは、青少年、市民にはかけがえのない体験となると考えている。

古刹の荘厳な空間で演奏される音楽、また行在所の花鳥風月を描いた金銀の襖絵の公開、藩主ゆかりの品等の展示による文化財活用事業は文化財との関わりについて、地域はもとより姫路市内全体への波及効果が期待される。

当会は、船場城西地区において、地域住民が歴史をテーマに市中心部の活力や賑わい復活、街並み景観、文化財保護に対する住民意識の向上の一端を担えればと活動しており、本事業もその一環として大きな役割を担えると考えている。

（事業概要）

秋の一日、姫路市指定文化財の船場本徳寺（船場御坊）から芸術文化の新しい可能性を発信する。

本堂では、前半は、アマチュアの発表の場として、小・中・高校生、市民が演奏、歌唱を行います。後半は、兵庫芸術文化センター管弦楽団が演奏し、最後にプロ、アマの競演で締めくくる。

明治天皇ゆかりの行在所では、美術、襖絵、屏風絵と歴代藩主の書画などの品を公開、展示する。

いずれも入場料無料、演奏会の定員は300名。



（事業総括・感想）

船場本徳寺（船場御坊）本堂で、古刹で初めての本格的な演奏会を企画した。

まちづくりの会、本徳寺、地域、兵庫芸術文化センター管弦楽団が打合せを重ね、姫路市立琴陵中学校吹奏楽部、同校PTAのOGコーラスと兵庫芸術文化センター管弦楽団による金管五重奏の演奏が実現しました。管弦楽団と吹奏楽部のコラボレーションもあり、市内各所から訪れた270名の聴衆は、本堂の荘厳な雰囲気の中での素晴らしい秋のひとときを楽しんだ。併せて、明治天皇ゆかりの行在所の特別公開を行った。文化財の魅力を引き出し、地域、市民の交流の機会を持てたことは、非常に意義深く、感動した事業になった。

新しい姫路駅前に関する市民参画の場づくり

自 由

（実施年度） 平成 19 年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 スローソサエティ協会

（市の担当部署〈協働先〉） 姫路駅周辺整備室

（事業の目的）

姫路市やＪＲ西日本などが進めている姫路駅と駅周辺整備計画に対し、市民の関心を高め、市民参画の場づくりを図り、市民と行政との協働のまちづくりを進めることを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

- 1 姫路駅周辺整備に対する市民の認知を進め、関心を高めること
- 2 市民の意見集約をはかる手法を開発すること
- 3 計画の早い段階で、行政施策に対する市民の意見を反映させる仕組みづくりにつなげること
- 4 市民と行政との協働についてのモデルケースとなること
- 5 市民の意見が反映された姫路駅と駅周辺整備がなされること

（事業概要）

- 1 調査委員会の開催
- 2 調査手法の検討と企画立案
- 3 現地説明会の開催
- 4 ワークショップの開催
- 5 意見集約と報告書の取りまとめ

（事業総括・感想）

このたび当協会の提案が、市との協働事業として位置づけられたこと、そしてパートナーの姫路駅周辺整備室との協働が円滑に進み、新北駅前広場をはじめとする新しい姫路駅づくりに市民が参加する一つの契機となったことに感謝したい。

とはいえ、姫路市における市民協働型社会はまだ胎動が始まったばかりである。行政も市民もお互いに理解を深め、力を活かしあい信頼できる関係を作り上げるまでには、多くの手間隙がかかり、またよりよい協働のシステムづくりが欠かせない。

とりわけ、ここ数年から１０年足らずの間で、ＪＲ姫路駅、駅前広場、大手前通り、姫路城、商店街、駅南西地区が装いを変え、キャスティ２１事業も進捗していく中で、世界文化遺産姫路城を有し国際交流都市を目指す姫路市が、２０年後、３０年後にさらに魅力ある都市になるためには、世界中から先見性のある知恵が集まる仕組みづくりが必要である。そうした姫路のまちづくりに衆知を集めるべく、当協会は今後とも一定の役割を果たしていきたい。

黒田の殿様鳥絵展&

観 光

黒田24騎刀剣・武具甲冑展

(実施年度) 平成20年度

(実施団体) 播磨の黒田武士顕彰会

(市の担当部署〈協働先〉) 農政経済局 観光交流推進室

(事業の目的)

筑前黒田家15代当主であり卒寿を超えられても健在でご活躍中の黒田長久公直筆の鳥絵の展示会と、歴史作家としてなかでも黒田官兵衛の実証的研究家として知られる本山一城氏所有の刀剣・武具・甲冑の展示会の開催を目的とする。

(期待される効果又は達成目標)

前山階鳥類研究所所長や日本の野鳥の会会長を歴任され、現在、財団法人黒田奨学会総裁及び播磨の黒田武士顕彰会名誉会長を務められている黒田長久公が描いた鳥絵は、環境保護や学術的見地からも価値があり、これを展示することにより、市民の文化や教養を高めることを目的とする。

作家、研究家として著名な本山一城氏が所有する刀剣・武具・甲冑は、旧黒田藩を支えた西播磨出身の黒田24騎が使用したものであり、これを展示することにより、本市との関わりを顕在化させ、歴史を掘り起こすことを目的とする。

(事業概要)

- 1 旧黒田藩15代当主長久公直筆による鳥絵展・鳥の詩を開催
自然破壊の進行する現状に警鐘を鳴らし、環境保護を実践することにより、人間との共存を図っていくことの大切さを訴えることができる。
- 2 西播磨出身の黒田24騎が使用した刀剣・武具甲冑の展示会を開催
今から450年以上も前への追憶から、黒田官兵衛との繋がりを深化させることにより、興味を持たせ、啓蒙活動に寄与できる。



ひめじ田宴アート 収穫祭

観 光

（実施年度） 平成20年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 ゆめさきプロジェクト

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 農林水産部 農政総務課
農政経済局 観光交流推進室

（事業の目的）

8種類の異なる品種の稲を使い、その色で実物大の姫路城を表現するのが「ひめじ田宴アート」である。夢前町玉田の2.1haの田んぼを使い「実物大の姫路城」を再現する。特に穂が色づく10月に収穫祭を実施し、多数の方々に書写に来ていただき、ロープウェーを使って山頂へ上がるなどし、書写山方面を姫路市の第二の観光地として広くPRすることが目的である。

（期待される効果又は達成目標）

田んぼアートの先駆者である青森県田舎館村は、年間30万人もの観光客を集客している。我々の実施する「ひめじ田宴アート」の実施場所である姫路市夢前町玉田は、書写山と夢前川をはさんだ向かいにあり、ロープウェーからは田宴アートが一望できる。この田宴アートをきっかけに書写山に訪れていただき、その魅力を多くの方々に知っていただくとともに、田んぼから収穫された米を食べることによって、地産地消も推進したいと考える。このことから、観光、食育、地産地消など多方面での効果が期待できる。多くの人たちに参加していただき、「見る」「食べる」とともに姫路の魅力を発信したい。

（事業概要）

来秋から姫路城の「平成の大修理」が始まり、観光客の大幅な減少が予想されることから企画したのが「ひめじ田宴アート」である。

田宴アートとは、異なった種類の稲や穂の色で田んぼに絵を描くアート作品である。姫路城をモチーフとした原画の作成を市内在住の版画家岩田健三郎氏に依頼し、夢前町玉田の会場で小学生から高齢者まで約800人が参加して、約10万株の稲の植え替え作業を行っている。

今後は、7月から10月ごろまで、稲の生育とともに図柄が変化していく姿を、書写山ロープウェーや書写山頂から一望できるようになる。稲の成長に伴う姫路城のアートの変化の画像をインターネットを通じて紹介していく。



（実施年度） 平成20年度

（実施団体） 歴史と出会えるまちづくり船場城西の会

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 観光交流推進室
都市局 まちづくり推進部 都市計画課
都市局 まちづくり推進部 まちづくり指導課

（事業の目的）

近年、姫路を訪れる外国人や姫路に住む外国人が増えていることから、世界文化遺産姫路城のバッファゾーンに位置する船場城西歴史地区において、外国人、日本人を問わず誰もが、いつでも姫路の歴史文化や生活に触れることができる仕組みを構築することを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

歴史をテーマとした活動を通じて、市中心部の活力や賑わい復活、街並み、景観、文化財保護に対する市民意識の向上を目標としている。

多種多様なふれあい、おもてなしは、地域コミュニティの構築や広がりが期待できる。

（事業概要）

西国街道を中心に、町家を楽しむ、町を味わう、町で学ぶをテーマに事業を行う。

事業開催期間は、10月19日から23日で、最終日の10月23日には、募集型のまち歩きを開催するほか、事業期間中は自由に散策できるように、地区内の店舗、工房、寺に街角案内所を10ヶ所程度設け、イラストマップの配布や情報を発信する。この案内所は、今後も継続していきたい。この事業に併せて、イラストマップを新しい情報、街角案内所などを盛り込んだ新版に改訂する。



ふれあいと共生の「見野の郷」魅力アップ事業

自 由

（実施年度） 平成20年度

（実施団体） 見野古墳群保存会

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 観光交流推進室
建設局 みどり整備室
教育委員会 生涯学習部 文化財課

（事業の目的）

姫路市指定重要有形文化財であり、地域の宝である見野古墳群の保存、継承活動を行う。古墳群山側に山桜を、町内各所には山アジサイを植樹して、見野の郷を「古墳と草木の郷」として整備し、地域住民とふれあえる交流事業を行う。

（期待される効果又は達成目標）

古墳と花が両方楽しめる場所として見野古墳群を訪れる人は益々増加するものと思われる。その結果、観光客と地域住民との交流が深まり、地域住民は地域への愛着と誇りを持つようになり、地域が活性化する。このような活動が子どもたちに影響を与え、地域への愛着、誇りの気持ちが育まれる。

（事業概要）

見野古墳群保存会及び地域住民が、見野の郷交流館と協働して、地域外の住民とのふれあいや様々な世代との共生のまちづくりを進めるため、次の「見野の郷」の魅力アップ事業を行う。また、この事業は、姫路市が進める緑化推進事業の花の名所づくり事業や観光資源のPR事業とも整合性のあるもので、今後関係部局等とも連携、協働していく。

- 1 山桜の植栽
- 2 見野古墳群和光公園等の魅力アップ事業
- 3 ボランティアの養成
- 4 魅力ある散策コースの実現
- 5 他地域住民への魅力発信



姫路市民活動アドバイザー派遣モデル事業

自 由

（実施年度） 平成20年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 コムサロン21

（市の担当部署〈協働先〉） 市民局 市民参画部 市民活動推進課
市民活動・ボランティアサポートセンター

（事業の目的）

私たちの暮らす地域社会では、いつもどこかで社会問題が発生しているが、それらの問題解決のため、市民活動団体が日々活動している。しかし、その市民活動団体は、継続した活動を行っていくための運営面での課題を抱えているのが現状である。

「姫路市民活動アドバイザー派遣モデル事業」は、その団体の運営面での課題を解決するため、市民活動のマネジメントに詳しい専門家を団体の活動現場などに派遣し、実情に応じた適切なアドバイスをしながら団体の活動を支援する。この事業を通じて、市民活動団体の円滑な運営を支援することにより、継続した活動がなされ市民活動が、より活発になることで、地域社会が暮らしやすくなること、しいては地域社会の活性化に寄与することを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

市民活動の運営面に関する様々な悩みや課題の解決のために、アドバイザーが実際にその市民活動団体の現場に赴き、個々の団体の具体的な課題に触れることによって、来所相談などでは見えない問題点を見つけることができる。そして、現場に即した明確なアドバイスやネットワークづくりのサポートを行うことができる。

また、このアドバイザー派遣事業の実施により、この事業自体の継続性のための基準づくりのモデルを作成することを目標とする。

（事業概要）

姫路市内で活動する市民活動団体を対象として、運営に対するマネジメント力強化のために、市民活動アドバイザーを派遣し訪問相談を実施する。

（事業総括・感想）

市民活動出張相談実施状況

1 相談実施期間 平成20年8月1日～平成21年3月31日

2 出張相談概要

団体の現状を事前電話相談や、実際に現場にアドバイザーが赴きヒアリングを行いながら、内容等の確認を行った。そしてどのような問題点があるのかを現場スタッフと共に考え、解決策を導き出して行った。

出張相談後も、電話相談や来所相談を行い、団体運営で困っていることなどを聞きながら、継続してサポートを行っていった。

3 出張相談回数 12回

4 電話相談・問合せ件数 約80回

お菊虫プロジェクト

自 由

（実施年度） 平成20年度

（実施団体） 姫路城下町街づくり協議会

（市の担当部署〈協働先〉） 市民局 市民参画部 文化交流課
農政経済局 観光交流推進室

（事業の目的）

播州皿屋敷の地、姫路を広く知ってもらうことと併せて、その縁で制定された市蝶“ジャコウアゲハ”の制定20年を記念して、文化誌を発行するとともに、めったに見られなくなったジャコウアゲハ（お菊虫）を育て、市民に広めることを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

- 1 播州皿屋敷伝説の再認識（十二所神社内、お菊神社の再認識）
- 2 市蝶ジャコウアゲハ（お菊虫）と食生ウマノスズクサへの認識を新たにする
- 3 新しい土産を創作することにつなげる

（事業概要）

- 1 「ジャコウアゲハ（お菊虫）と播州皿屋敷の民俗文化誌」の出版
相坂耕作氏「ジャコウアゲハ（お菊虫）の民俗文化誌」の出版後、さらに収集した資料を含め、生物学的分野から、文化史、民俗学的话题を含めた、姫路市ならではの本を出版する。
- 2 上記出版を記念して「お菊虫と播州皿屋敷展」を開催
播磨昆虫民俗資料館（上郡町）収集品を始めとする関連資料を展示する。



（事業総括・感想）

「ジャコウアゲハ（お菊虫）と播州皿屋敷の民俗文化誌」出版記念展

実施期間 平成21年2月24日～平成21年3月31日

場 所 イーグレひめじ地下1F 特別展示室

入場者数 834人



「笑いのまちをめざして～笑いを科学する」

自 由

フォーラムの開催

（実施年度） 平成20年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 姫路コンベンションサポート

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 商工部 産業振興課
中心市街地活性化推進室
農政経済局 観光交流推進室

（事業の目的）

次世代のまちづくり活動の担い手を育成するために、講演会並びにワークショップを開催することを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

まちづくりに関心を持ち、その中心となってきた世代から次の世代にその活動と想いを引き継ぐべく、まちづくり活動のリーダーを育成する。よさこいチームなどのリーダーを中心に参加を募り、「よさこい」をツールにコミュニケーションを行ってきた若者たちが、一歩進んでまちづくりに対する認識を新たにし、より大きく躍進できるきっかけにしたい。

（事業概要）

講演会とワークショップの開催

開催日 平成21年3月15日

講師 福田純子氏

場 所 姫路文学館

（事業総括・感想）

福田純子氏の講演会のあと、8班に分かれてワークショップを開催し、市民活動に対する思いを発表した。また、アンケート調査を実施して、若者たちの市民活動に対するイメージ、参加の機会を調査した。

開催日 平成21年3月15日

講師 福田純子氏

参加者 85名



車椅子バスケットボールを含む

自由

障がい者スポーツの啓発事業

(実施年度) 平成20年度

(実施団体) チームWeB

(市の担当部署〈協働先〉) 市民局 生きがい推進部 スポーツ振興課
健康福祉局 福祉部 障害福祉課

(事業の目的)

多くの青少年に社会の中での様々な違いを自然の事と受け止めてもらい、理解し考えてもらうための冊子を作ることとする。

(期待される効果又は達成目標)

- 1 障がい者スポーツの理解の拡大。
- 2 障がいを持った人たちの社会参加の機会の拡大。
- 3 青少年に障がい者スポーツの種類や本質を知ってもらうことにより、夢と目的の必要性を理解してもらう。
- 4 若年、青年層が体験授業を通じて感じたことを一時の事とせず「冊子」で記録として残すことで後々まで理解を深め考える機会の提供ができる。
- 5 複数の団体と連携することで年間受講者を2倍以上に増やすことが期待できる。

(事業概要)

現在「車椅子バスケットボールの体験対話交流会」として学校訪問を行い、「教室授業」を通じて、数百人に車椅子バスケットボールの魅力や障がい者を取り巻く環境など、双方向でのコミュニケーションを実施しているが、スケジュールの都合でお断りするケースが増えてきた。また、体験会や講義を通じて障がいのケース、また自分にあった表現の仕方は様々であることを周知しているが、十分伝わりきれない所がある。

そこで、より多くの青少年並びに受講者に理解してもらうために体験や講義受講後にも形に残る「冊子」が必要になった。

「冊子」という形で残すことにより、体験したことを一時の感情に留めることなく、自分にできることは何かを考えてもらうツールとして活用できる。

（実施年度） 平成 2 1 年度

（実施団体） 姫路古墳ロード実行委員会

（市の担当部署〈協働先〉） 教育委員会 生涯学習部 埋蔵文化財センター

（事業の目的）

姫路古墳ロード（全長約 8 キロ）を多くの人に訪れていただき、地域の活性化を図ること及び貴重な地域遺産である古墳群の保護、活用を行うことを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

古墳を活かしたまちづくりができる。「古墳と山アジサイの郷四郷」が、市民に周知され、多くの人々が姫路古墳ロードを訪れるようになれば、住民は地域に誇りを持つようになり、地域は活性化する。なお、姫路古墳ロードを構成している見野古墳群では、見野古墳群保存会が先行して事業に取り組み成果をあげている。

（事業概要）

姫路古墳ロード実行委員会と姫路市埋蔵文化財センターが協働して、「姫路古墳ロード花いっぱい事業」を行い、古墳を活かしたまちづくりを進めるもの。

この事業は、現在、市が進めている「歴史遺産活用委員会」で検討されている古墳を活かしたまちづくりの具現化を図るものである。姫路市が進める緑化推進事業の花の名所づくり事業や観光資源の P R 事業とも整合性のある事業で、今後関係部局などとも連携、協働していく。

四郷校区においては、平成 1 7 年度より見野古墳群保存会が見野古墳群を活かしたまちづくりに取り組み、成果を挙げているのでそのノウハウを取り入れながら事業を進めていきたい。

（事業総括・感想）

一連の山アジサイの挿木作業から管理作業及び移植作業を通して、地域に連帯感が生まれ、姫路古墳ロードに対する愛着と誇りが深まったように思う。

ただ、山アジサイは半日陰を好み、特に夏場は大量の水を必要とし、活着させるためには水遣りが欠かせない。この作業はボランティアの協力がぜひ必要である。山アジサイが訪問者の目を引くようになるには、2・3 年はかかると思うが、地道な努力を続けていきたい。



お城まつり 60 周年記念

自 由

ドキュメンタリー作品の制作および上映

(実施年度) 平成 21 年度

(実施団体) Ecrans de Harima (エ克蘭・ドゥ・ハリマ)

(市の担当部署〈協働先〉) 農政経済局 観光交流推進室

(事業の目的)

60 年という節目を迎えたお城まつりの歴史や関係者の思いを綴るドキュメンタリー作品を制作することで、その歴史と思いを振り返り、次代を担う世代にお城まつりを継承し、お城まつりへの市民参画の機運を高めることを目的とする。

(期待される効果又は達成目標)

お城まつり 60 年という節目の年に、イベントのメインとなる記念プログラムができ、集客の目玉となり、お城まつりに賑わいをもたらす。

また、映像作品化することで、市民や観光客はお城まつりの歴史やあゆみを再確認することができる。関係者にとっては過去を振り返りながら今後のまつりを考える機会となる。

さらに、上映会を通じて市民に姫路に対する愛着や誇りを喚起する事で、市民の知恵と創造性を活かしたまちづくりがより一層活性化することを狙う。

(事業概要)

- 1 お城まつり 60 周年記念ドキュメンタリー作品の制作
- 2 告知用チラシ製作・配布
- 3 お城まつり 60 周年記念ドキュメンタリー作品の上映

若者らの自立を考える交流会

自 由

（実施年度） 平成21年度

（実施団体） 情報センターふきのとう姫路

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 商工部 労働政策課

（事業の目的）

社会生活に参加できにくい若者らが増加している状況のなか、少しでも若者らが自分自身の意思で、社会参加できる「場」（しゃべり場処）を設け、社会人と接することにより、若者ら自身の内なるエネルギーを誘発し、実体験を通し、各団体が連携して、社会資源に活用する方途を構築することを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

事業が各団体と連携することにより、若者らが、

- 1 それぞれの団体の持ち味を活かしながら、各事業を実施し、社会参加できる手立てを学ぶ。
- 2 若者ら同士の立場を理解しあい、自己の持ち味を活かし、他と立場を理解し、共同で活動できる。
- 3 若者らが自己有用感、自己肯定感を培うことができる。

（事業概要）

若者らに対して、社会参加の仕方や善きコミュニケーション能力を培うために次の事業を行う。

- 1 学習会、講演会、交流会への参加
- 2 各種イベントへの参加 など

（事業総括・感想）

交流することによって、

- 1 人と人とのかわりが、いかに重要かということを知った。
- 2 考え方、行動などは人それぞれであり、また、人によって適切な対応が必要であることがわかった。
- 3 お互いを認め合う、助け合うことが大切であることが分かった。

講演会、シンポジウム等を通じて、

- 1 専門家等による専門的な考え方等の知識を今後活用した。
- 2 様々な事例、案件を知り、これからの活動に活用できる。
- 3 他の団体との情報交換等で、成功事例などを参考に今後活用できる。
- 4 他の団体と共同で事例に関わっていける。

「桜山公園」未整備エリアの荒廃竹林整備

自 由

（実施年度） 平成21年度

（実施団体） 太市の郷

（市の担当部署〈協働先〉） 建設局 みどり整備室

（事業の目的）

荒廃竹林整備のため、次の事業を行うことを目的とする。

- 1 「桜山公園」未整備エリアの放置竹林を手入れして、山桜の保全を行う。
- 2 荒廃した竹林を、植生を理解した適正な間伐を行い整備する。
- 3 自然を守りながら、自然とふれあい、遊び、学ぶ、美しい竹林の景観を愉しめる市民公園となるよう提言を行う。

（期待される効果又は達成目標）

荒廃林が整備されて、山桜の枯亡を未然に防ぎ、桜を楽しむ里山景観が甦る。

間伐された竹藪で、筍掘り体験イベントなど市民に開かれた竹林公園を創生する。

竹柵を設置し、ゴミ投棄の防止と獣害対策に併せて、里山景観を演出する。

山桜の保全と竹林整備の活動を通して里山景観が蘇生することにより、誇りある故郷の原風景を再生することができ、地域が活性化する。

（事業概要）

- 1 住民がその価値を共有しているような景観を、里歩きワークショップで発掘する。
- 2 朽枯れそうな山桜の保全治療活動を行い、荒廃した竹藪を間伐整備して、美しい里山景を再生させる。
- 3 筍盗掘や不法ゴミ投棄者の侵入、鹿・猪など獣害防除のための竹柵を設置する。
- 4 案内・注意標示看板の設置を行う。
- 5 公開フォーラムの開催を企画する。

（事業総括・感想）

市建設局みどり整備室との協働事業として取り組みました。休日を活用したボランティアで、職員方の多くの献身的協力により活動を開始し、地元メンバーはもちろん、広く呼びかけた市民の方々も回を重ねるごとにふえ、初期の構想を遥かに超えた事業成果が現れました。

また不法ゴミ投棄に頭を痛めていたところ、市担当部局によって防護金網フェンスの設置も行っていました。

今後も地道な活動が不可避ですが、まずは初年度の成果は十分に達成されたと思っています。



（実施年度） 平成21年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 ゆめさきプロジェクト

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 農林水産部 農政総務課
農政経済局 観光交流推進室

（事業の目的）

書写山（ロープウェイ）から全景が見渡せる姫路市夢前町玉田地区の田んぼ約1.6haをキャンバスに、古代米を含む6種類の異なる品種の稲苗を植え、季節によって色が変化する姫路城の絵を描く。市民や観光客に見ていただくとともに、マスメディアやインターネット上で広く情報発信する。また、田宴アート会場では、田植え、田んぼの生き物調査、収穫祭などのイベントを行い、観光、食育、地産地消などについてのPR拠点として活用することを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

- 1 市民や観光客にPRする効果が高い
- 2 田園アートの姫路市への経済波及効果が大きい
- 3 地産地消、食育、農業・米・生き物についての啓発の拠点
- 4 産・官・学・民の協力

（事業概要）

田宴アートとは、田んぼに種類の異なる稲を使って絵を描きだすものである。

今秋から、姫路市の顔というべき世界文化遺産の姫路城が平成の大修理という局面を迎えており、観光客が大幅に減ることが予想されていることから「ひめじ田宴アート」を企画した。

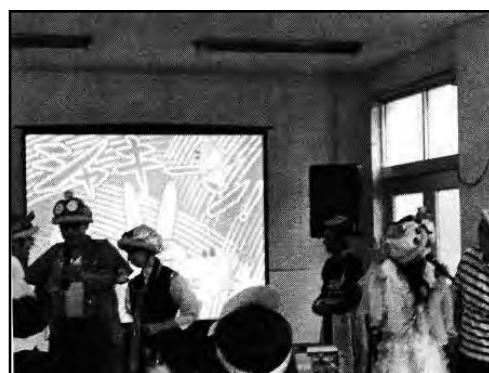
（事業総括・感想）

地元高校生にデザインを募集し、応募デザインの中から最優秀賞に輝いた「千姫と姫路城」を圃場に6品種の稲で描いた。稲の植え替え作業の指示書は、兵庫県立大学環境人間学部関研究室の協力により作成した。

「お田植え祭」を執り行い、早乙女による田植えを行った後、姫路城を描くための植え替え作業を2日間で延べ約1,000人の参加者により実施した。

書写山サマーナイトフェスティバルに協賛し、圃場を投光機によるライトアップ、ロープウェイ山麓駅広場で“メダカのコタロー劇団”によるアニメ紙芝居を実施した。

収穫祭として、稲刈り体験、食育、地産地消イベントを約800人の参加者により実施した。



こどもたちが紡ぐ“未来のまちうち物語”

自 由

（実施年度） 平成21年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 スローソサエティ協会

（市の担当部署〈協働先〉） 姫路駅周辺整備室

（事業の目的）

姫路駅周辺整備について、市民の関心を高めるために次の事業を行うことを目的とする。

- 1 こどもたちが紡ぐ夢の物語という形をとって話題性を高め、効果的な情報発信を行う。
- 2 400年前の都市計画であった姫路城の「縄張り」について、体験的に学ぶ。
- 3 内々環状道路の内部エリアでのまちづくり案を市民に知らせ、関心を高める。
- 4 こどもたちが楽しみながら、まちのあり方を学習し、自分のまちに対する愛着を深める。

（期待される効果又は達成目標）

- 1 現在の〈まちうち〉ができあがった歴史的いきさつを知る。
- 2 内々、内環状道路網により、新しい〈まちうち〉が生まれることを広く知らせる。
- 3 こどもの視点を取り入れ、こどもが楽しめるまちづくり計画づくりにつながる。
- 4 未来世代に「自分もまちの一員である」という意識を持たせられる。
- 5 「未来のまちうち物語」として、冊子にまとめられる。
- 6 姫路駅北駅前広場整備推進会議のメンバーや関係者、希望する一般市民に配布する。

（事業概要）

- 1 “未来のまちうち物語”づくりの実施
 - (1) まちうち再発見ウォークラリー
 - (2) “未来のまちうち物語”づくり
- 2 小冊子の制作と配布
- 3 ビデオの制作とインターネット上での公開



（実施年度） 平成21年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 姫路コンベンションサポート

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 商工部 産業振興課
農政経済局 観光交流推進室

（事業の目的）

市内外からの姫路活性化を図るため、名所・旧跡だけではない「姫路の魅力」を発見するチャンスを創出し、姫路市民はもちろん全国からの観光客にも、より深く姫路を知り、楽しんでもらうこと及び姫路へのリピーター、新規客を誘致することを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

- 1 市内各所に点在する「みどころ」の活性化
- 2 姫路城以外の魅力を全国に発信
- 3 姫路市内への観光リピート客、新規観光客の誘致

写真展示総目標数 5,000点

（事業概要）

- 1 ひめフォト 写真展示部門
全国から募った姫路写真を、残らず展示する。
展示作業や受入作業には、多くの思い出を持つ好古学園大学校写真同好会の協力を要請する。
- 2 ひめフォト塾（年4回開催）
HIPS（姫路市国際写真家協会）に参加するプロカメラマンによる写真塾を開催。
塾は、実際にまちなかに繰り出して行うものとし、その際のアテンド係は好古学園の皆さんや、姫路商工会議所まちづくりステーションに詰めるシニアガイドの皆さんにお願いする。

（事業総括・感想）

写真の募集をかけるためにチラシ5,000部を制作し、商店街内店舗・カメラ販売店や写真愛好家のサークルなどへ配布したが、既存のコンテストなどの「コンペティション」という概念からなかなか離れてもらえず、作品収集が思うようにはかどらなかった。しかし、年度末まできて漸く「全部展示する」ことの意義を分かってくださる賛同者も現れ、今年度の助成金で揃えることのできた資材を活用して、今後は大きな金額を使うことなく永続的に続けていきたい。

「もうひとつのひめじ」発信ワークショップ

自 由

（実施年度） 平成21年度

（実施団体） 手ん子森

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 観光交流推進室

（事業の目的）

姫路城修復工事開始を機にお城“以外”の魅力を再発見・再編集し印刷物（マップ）とウェブを併用しながら、多角的な姫路の魅力を発信すること並びに埋もれている姫路の観光資源を発掘すること及びそのためのゆるやかなネットワークを形成することを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

- 1 姫路城や書写山だけではない、「もうひとつの姫路」の魅力を発信すること。
- 2 一般紙などには掲載されていない細やかな姫路の魅力を発信と人財の発掘。
- 3 ワークショップによって市民が出会いながらゆるやかに形成されるネットワーク形成。
- 4 市民へPRし、将来的に市民の自発的な活動を促すきっかけ作り。

（事業概要）

姫路の埋もれている魅力をみんなで発掘し、分かりやすいように編集して、手にとってもらいやすく、またほしい人に届く形で発信していくことで、姫路城や書写山だけでなく、姫路の“もうひとつ”の魅力を訪れる人たちに伝えていきたい。

（事業総括・感想）

マップを発行、そしてマップだけでなくブログでも発信する手法です。

マップには、今回、QRコードをつけることになりました。これは公募で集まってくださった方のアイデアで、広島県尾道市へ観光で行った際にマップにバーコードが入っていて、携帯端末で情報が取り出せたのが便利だったことがきっかけです。

また掲載範囲も、駅北、駅南から亀山まで比較的広い地域を取り上げました。

取材にスタッフが行きましたが、断られたりすることもあり、難しさを感じました。

素人ということで文体もバラバラですが、それが逆に個性となっているようで好評をいただいております。ブログも日を追ってアクセス数が増えており、応援メールもいただいています。

印刷物としての価値もあると思いますが、何より多くの方が参加してくださったことが一番の収穫であったと考えます。

生涯現役体操（ガンバルンバ体操）

自 由

啓発応援事業

（実施年度） 平成22年度

（実施団体） ガンバルンバ体操ひろめ隊

（市の担当部署〈協働先〉） 市民局 生涯現役推進部 生きがい推進課

（事業の目的）

幼児から高齢者まで、幅広い年齢層の方が無理なくできる「生涯現役ガンバルンバ体操」を広めると同時に、振付譜パンフレットを通じて、市民に健康な身体づくりの大切さと必要性を理解してもらうことを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

生き生きとした健康な身体づくりを目的とした体操が、人の輪をつくり、その輪が、やがて人づくりの素となり、地域連帯社会の発展へとつなぐことができる。

また、姫路市から誕生した体操として市内外へと広めていくことを目標とする。

（事業概要）

- 1 生涯現役ガンバルンバ体操 パンフレット振付譜作成
 - (1) 仕様 A4仕上げ、3ツ折
 - (2) 作成部数 5,000部
 - (3) 配布先 市内各地の老人クラブなど
- 2 生涯現役ガンバルンバ体操の啓発活動
 - (1) イベント等への参加・実演
 - (2) 出前講座の実施（月1回程度）
 - (3) ガンバルンバ体操&サプライズ健康教室の開催（平成22年12月～、月2回）

（事業総括・感想）

多くの生涯現役の方たちの前で、うまく説明ができたか、理解していただけたか、不安がありました。

しかし、回を重ねるたびに我々会員も慣れてきて、多くの参加者とのふれあいもでき、反対に教えられることも多くあり嬉しかったです。参加者の皆さんのパワーに温かいぬくもりを感じました。

多くの校区の方たちとのふれあいができ、皆さんの前向きな姿に喜びをいただきました。できれば、楽しく、元気に、仲間づくりを目標に続けていきたいと願っています。



姫路古墳ロードを巡る健康ウォーキング事業

自 由

（実施年度） 平成22年度

（実施団体） 姫路古墳ロード実行委員会

（市の担当部署〈協働先〉） 市民局 生きがい推進部 スポーツ振興課

（事業の目的）

姫路古墳ロードを巡る健康ウォーキングを推進することにより、訪れる多くの人々の健康促進、地域の活性化を図るとともに、貴重な地域遺産である古墳群の更なる活用を行うことを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

見野古墳群をはじめとして、四郷近郊の史跡や施設を巡る健康ウォーキング事業としてマップ及び古墳の説明看板を作成し、これを参考に多くの方々が古墳ロードを訪れ、ウォーキングを楽しんでもらうことにより、自然と自己の健康について考えていただければ訪れる人が元気になる町ができる。

（事業概要）

姫路古墳ロード実行委員会と姫路市埋蔵文化財センターが協働して、事業「姫路古墳ロード健康ウォーキング事業」を行い、活力ある地域づくりを進める。

この古墳を巡る散策路「姫路古墳ロード」健康ウォーキング事業としてマップ等や説明看板づくりを行う。

（事業総括・感想）

『訪れる人が元気になるまち』を目指し、健康ウォーキングマップの作成や古墳の説明看板設置により、訪れる人が四郷町にある古墳や施設を巡って古代の歴史を感じてもらい、少しでも健康（心身とも）に役立てていただければと思っている。

また、昨年度行った山あじさいの挿木作業による活着率は約6割で、鉢植え作業を行ったあと、古墳ロードにある公共施設や各自治会に配り、管理していただいている。今年度も引き続き挿木作業を行ったが、山あじさいが花を咲かせ、古墳ロード訪問者の目を引くようになるには2、3年のはかきり管理が大変であるが、地道な努力を続けていきたい。



播磨の黒田武士24騎里帰りパレード

自 由

（実施年度） 平成22年度

（実施団体） 播磨の黒田武士顕彰会

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 観光交流推進室

（事業の目的）

黒田官兵衛・長政の福岡藩草創期、これを支えた24騎を広めることにより、縁の5市との連携を進行させて、NHK大河ドラマを実現させ、景気活性化へもつなげることを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

顕彰活動を展開することにより、自治体姫路市の存在を知らしめ、大河ドラマ化実現により、経済的波及効果が飛躍的に期待され、地域経済の活性化が期待される。

（事業概要）

当顕彰会の発足した年の第57回お城まつりから、お城まつり歴史パレードに参加しているが、本年は、発足5周年を記念して、「中国大返し凱旋パレード」と銘打って、お城まつりに参加する。

（事業総括・感想）

当顕彰会発足5周年を記念する、黒田官兵衛・長政と黒田24騎「中国大返し凱旋パレード」は、黒田官兵衛に扮した16代当主、黒田長高氏を先頭に、子供甲冑隊らを従えた約150名が、さながら戦国時代の昔日を彷彿とさせる絵巻き行列を披露し、沿道の観客から惜しみない拍手・喝采が送られ、歴史パレードの中でも一際目立つ存在でした。

これに先立って、午後1時から大手前公園特設舞台では、豊前中津国観光ネットワーク黒田の会会員の皆さんらが、正調黒田武士・おんな黒田武士などを見事に演じ、初参加のスタジオニュージ神桜舞しのびは、7歳から10歳までの女子が忍者（くノ一）や侍に成りきり、舞台狭しとハイテンポな舞を見せ観客を魅了しました。



（実施年度） 平成22年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 ゆめさきプロジェクト

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 観光交流推進室

（事業の目的）

書写山（ロープウェイ）から全景が見渡せる夢前町玉田地区の田んぼ約1.6haをキャンバスに、古代米を含む6種類の異なる品種の稲苗を植え、季節によって色が変化する姫路城の絵を描き、姫路市民や書写山ロープウェイ利用者に見ていただくとともに、インターネット上で広く情報発信するとともに、田植え、田んぼの生き物調査、収穫祭などのイベントを行い、観光、食育、地産地消などに冠するPR拠点として活用することを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

- 1 姫路城のPR効果
- 2 経済効果
- 3 農業の新たな可能性のPR効果
- 4 地域のつながりの醸成

（事業概要）

田宴アートとは、田んぼに種類の異なる稲を使って絵を描きだす芸術である。

今秋から、姫路市の顔というべき世界文化遺産の姫路城が平成の大修理という局面を迎えており、観光客が大幅に減ることが予想されていることから「ひめじ田宴アート」を企画した。

（事業総括・感想）

3年目の平成22年は、「姫路城と鎧」をテーマに兵庫県在住の方を対象にデザインを新聞等を通じて募集しました。応募総数46点の中から最優秀賞1点、優秀賞5点を選考し、最優秀賞のデザインを圃場（約1.6ha）に6品種の稲で描きました。

お田植え祭を行い、早乙女による田植えを行いました。その後、姫路城を描くための植え替え作業を2日間で約700人の参加者により実施しました。

書写山サマーナイトフェスティバルに協賛し、圃場を投光機によるライトアップを実施し、田宴アートのPRに取り組みました。

抜穂祭を行い、御刈女による稲刈りを行いました。その後約400人が参加して稲刈り、種子採取体験を行いました。



「地域サロン」づくり講座

福 祉

（実施年度） 平成22年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 はなのいえ

（市の担当部署〈協働先〉） 市民局 市民参画部 市民活動推進課
健康福祉局 保健福祉推進室

（事業の目的）

核家族化・少子高齢化などが進み、地域での交流が少なくなったことによる課題に対応するため、かつて存在していた地域交流（井戸端会議）の場所を、市民の手でもう一度作りあげていく仕組みづくりを行うことによって、子育て・障がい者・高齢者に対する支援を同時に行うことを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

市民の手で作る地域交流の場＝地域サロンは、市民のボランティアによって支えられるコミュニティである。この地域サロンの必要性を理解し、サロンの立ち上げのノウハウを幅広く市民の皆さんに広めて行くことで、それぞれに必要な場所を作ることができるようになる。子育て中のお母さんは相談支援の場所を、障がい者には居場所を、高齢者には活性化する場所を、定年退職者には生きがいを見出す場所を、ニートやフリーターには社会へのきっかけ作りの場所となるなど、それぞれに今自分が必要とする場所を発掘し確保することができる。同時に公的な制度を必要としない人が増え、行政の負担軽減にもつながるのではないかと思う。

（事業概要）

地域サロンづくりに関する市民講座を開催する。

- 1 サロンの必要性や内容を実践者から報告
- 2 ノウハウを伝える
- 3 実践シミュレーション
- 4 グループ討議 など

（事業総括・感想）

「地域サロン」づくり講座を行ったことで、これまで殆どの方が知らなかった「地域サロン」の必要性を理解していただけたと思う。また、高齢者だけではなく障がい者や子育て、生きがい支援にも、必要であると気づくきっかけ作りになったと思う。しかし、今回の講座に参加された方が、「地域サロン」を立ち上げるまでには至らず、これからも継続していきながら進めていく必要があると思う。それと同時に、「地域サロン」を多くの方に認知していただくために、「地域サロン」を簡単にまとめた冊子を制作し今回の成果とした。

地域での関係性が希薄になってきている中で、今回の「地域サロン」づくり講座を開催することで、自分たちの住んでいる地域を、自分達で作って行かなければならないという意識が芽生えたことは良かったと思う。思っていた以上に参加者もあり、その後の反響もあったことからやって良かったと思った。また、これから一緒に考えていけるネットワークの形成にもつながったと思う。

障がい者スポーツ参加型ボランティア市民講座 市民活動

（実施年度） 平成22年度

（実施団体） チームWeB

（市の担当部署〈協働先〉） 市民局 市民参画部 市民活動推進課
市民活動・ボランティアサポートセンター

（事業の目的）

障がい者並びに障がい者スポーツの周知啓発と、ボランティアとしての活躍の場の紹介及び提供に併せ、「障がい者スポーツ指導員」を養成することを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

当地域において、現在実施されている障がい者スポーツを体験及び知ることで、福祉・人権を含め広く市民にノーマライゼーションの意識付けが行える。

多くの善意ある市民にボランティアの活動を紹介することにより、その分野において意識の向上を促すとともに、意識的に参加できる場の提供を行える。

当地域における次年度以降の「障がい者スポーツ指導員養成講習会」開催の契機とする。



（事業概要）

障がい者スポーツの周知啓発及び市民の障がい者スポーツに対するボランティア参加という2つの目的を持ち、中期的には当地で「障がい者スポーツ指導員養成講座」を開催する展望を開くため本事業を実施する。

（事業総括・感想）

障がい者スポーツを『知る』『体験する』ことにより、福祉・人権を含め広くノーマライゼーションの意識付けを行うことを目的とし、2つのステップを実施した。

講座修了者の中から、一般市民2名と近畿医療福祉大学・ハーベスト医療福祉専門学校を中心とした学生が、障がい者スポーツのボランティアの現場で活動を始めたことにより、ボランティアとしての活動の場の紹介及び提供の役割を果たしつつあり、今後に希望が持てる。

特に福祉・医療・障害等について専門知識を学ぼうとする学生たちと草の根で活動する現場が結びついたことは大きな意味があり、障がい者スポーツのユニバーサル化に大きな期待が持てる。

今後の課題として、彼らが単に参加者としてではなく、ボランティア推進の立場から自主的にアプローチする人材として、いかに育成していくかがあげられる。

姫路市市民活動きっかけづくりトライアル事業 市民活動

（実施年度） 平成22年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 コムサロン21

（市の担当部署〈協働先〉） 市民局 市民参画部 市民活動推進課
市民活動・ボランティアサポートセンター

（事業の目的）

社会貢献活動を始めたい市民に、市民活動の知識を学び・参加してもらえるようなきっかけづくりのトライアル事業を行うことを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

市民活動についての現場の生の声を聞くことができ、複数の市民活動に気軽に参加することができるので、自分が今後も参加していきたいと思えるような市民活動についてのイメージをより具体的に持つことができる。そして、受入先団体も新規参加者が活動に参加することにより、活動の幅が広がり活動メンバーの意識変化のきっかけにもつながる。当団体が実施することにより、当団体と連携している多種多様なNPO団体やボランティア団体ネットワークを活用できるので、色々な分野の市民活動に気軽に参加することができる。

体験を通じて、参加者それぞれが市民活動に対する生きがい、やりがいを発見してもらう。

（事業概要）

市民活動きっかけづくりトライアル事業「まちボラ！トライアル講座」を実施。

- 1 対象：市内で市民活動を行う方
- 2 日程：平成22年6月～平成23年2月
- 3 実施内容：オープンセミナー、トライアル体験、交流会 等

（事業総括・感想）

まちづくりを行うボランティア活動をまちボラと命名し、地域貢献活動を始めたい市民を対象に、市民活動の基礎知識を学び、参加してもらえるようなきっかけづくり講座「まちボラ！トライアル講座」を実施した。

今回の講座は、参加者に対し、小規模なイベントから大規模なイベントまで幅広く活動体験する機会を提供することができた。

まちづくり活動に力を入れている団体中心に活動体験を行ったので、地域で活動する様々な分野の活動をトライアル体験できる事業を実施して、より多くの人に気軽に参加できるきっかけづくりの場を提供していきたい。



荒廃した里山・竹林の保全整備と啓蒙活動事業 環 境

（実施年度） 平成22年度

（実施団体） 太市の郷

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 農林水産部 農林整備課

（事業の目的）

筍を採取せず放置した竹やぶが、隣接地に侵食して雑木林を駆逐している。集落から竹林に結ばれた里道は、竹が覆いつくし、通行ができない事態である。人の行き来がなくなった場所には、不法投棄のゴミが後を絶たない。

このような荒廃した里山風景は、地域に暮らす者たちの気持ちを萎えさせている。人が生かされ人が育ててきた里地里山、歴史のある里道、かつて慣れ親しんだ美しい竹林の風景を甦らせ、ふるさとの原風景を再生することを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

地域の歴史や成り立ちを学び、先人たちの足跡に想いを馳せることで、里山のもつ環境を資源とする保全の意味合いに導くことができる。広く市民に参画を呼びかける活動を通して、地域と都市部市民の交遊がおり地域が活性化してくる。歴史ある道の整備と景観修復は、次代を担う子どもたちに郷里への愛着と誇りを持たせる。

（事業概要）

郷里を広く紹介し、学ぶ講座を開講しながら、自身と誇りを持って地域の保全整備の活動を進めていく事業を推進する。

- 1 地域住民がその価値を共有できるよう、里歩きワークショップで景観探索の実施
- 2 古道をテーマに、郷土文化史講座を開催
- 3 里山保全活動の推進
- 4 案内・注意標示看板の設置

竹林や里道を修景し、美しいものに変えて行くことで地域に情操効果を生み出し、明るく伸びやかな郷里を演出する起爆剤となるよう努力する。人々のつながりも深くなり、郷土に誇りを育み活性化を図る。

（事業総括・感想）

相野四拾町の荒廃した竹林地は、殆どが地域の外の所有者です。所有者の探し出しや保全構想の説明などに時間を要しましたが、関係の皆様の快諾が得られて推進することが出来ました。協働先の担当者からは様々な情報や援護を頂き、計画当初の想いを大幅に超える成果を得ました。また活動を広く市民に向け広報したことも功を奏し、多勢の協力者を迎えられて当会の自力を上回るパワーとなりました。

荒廃のため不法投棄ゴミが頻発していた竹やぶが、重ねる活動で明るさを取り戻し、かつ新たなゴミ捨ても無くなりました。活動地付近を通過するJR列車の車窓からの眺めも一変しました。

もう一つの事業『地域史講座』は、郷土生成の歴史的な背景を知ることによって土地に愛着を感じて、里山保全の修復活動が進展していくことを願い企画しました。計4回の開催は、どの回の講演テーマも参加者が溢れ、熱心に聞き入る会場風景は主催者にとって嬉しい限りでした。

自然と歴史の接点につくられた竹林は、そこに地域人の生活が確りと営まれていた証です。「美しい景観を持った里を、次代の子どもたちに繋ぎたい！」と思います。

「駅前サテライトミュージアム」社会実験

（実施年度） 平成22年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 スローソサエティ協会

（市の担当部署〈協働先〉） 姫路駅周辺整備室

（事業の目的）

姫路の自然、歴史や文化、食や技、生産物など「姫路らしさ」に関する情報を利用者の視点で収集、整理して発信する駅前サテライトミュージアムの実現可能性を探ることを目的とする。

特に、姫路固有の動植物について情報提供し、自然保護に対する意識の向上や担い手づくりをはかるとともに、市民や来街者に「姫路らしさ」情報を提供し、そこを出発点に姫路各地を巡ってもらうことで、まちの回遊性の向上や滞在型観光の充実につなげていく。

（期待される効果又は達成目標）

- 1 「姫路らしさ」を利用者の視点でわかりやすく表現できる。
- 2 「姫路らしさ」について、市民が具体的な知識を持つとともに、それを誇りに思うことができる。
- 3 「姫路らしさ」を守る、あるいは発展させる担い手が育つ。
- 4 「姫路らしさ」の見本市、あるいは姫路らしい人や活動の発表の舞台ができる。
- 5 整備後の姫路駅前のあり方について、市民や関係者が具体的なイメージを持てる。
- 6 整備後の姫路駅前の活用管理に関わる人的体制を構築するきっかけとなる。

（事業概要）

- 1 「姫路らしさ」情報の収集・整理
- 2 「姫路らしさ」情報満載掲示板の設置
- 3 「姫路らしさ」情報満載館の開設（2回、それぞれ7日間）

（事業総括・感想）

姫路駅前のまちづくりで当協会が開催した市民ワークショップで多く出された意見の一つが「姫路ならではの情報発信拠点がほしい」というもので、その拠点づくりを先取りする社会実験ができました。

姫路市や周辺地域には、県、市、民間のミュージアムがたくさんあり、様々な分野で展示情報発信を行っています。今回、このエリアのミュージアムが集まって、一緒に出展するということは初めてのことで、一元的に情報発信したことに意義があったと感じています。けれども、短い時間と限られた予算の中で、とりあえずは集まってやってみましたという、レベルでした。第2回の実験では、将来実現するサテライトミュージアムの姿を先取りするようなものにできればいいなと思っています。これらを通じて、姫路の文化、芸術、歴史、自然科学など、お金やモノの次元を超えた精神的な豊かさ溢れる姫路のまちづくりにつなげていけたら、NPO冥利に尽きると感じています。



姫路城周辺の町並みとひとの魅力を伝える

自 由

「短編ドキュメンタリー」の制作と上映

（実施年度） 平成22年度

（実施団体） Ecrans de Harima（エクリン・ドゥ・ハリマ）

（市の担当部署〈協働先〉） 農政経済局 観光交流推進室
都市局 まちづくり推進部 都市計画課

（事業の目的）

平成の大修理で姫路への観光が減少する今、姫路城周辺で活動する魅力あふれる人達や、城周辺に残る町屋や古民家の魅力などに焦点をあてた「短編ドキュメンタリー」を制作し、ひめじ国際短編映画祭で上映することで、姫路城だけでない周辺の町並みの素晴らしさやひとの魅力を観客にアピールしていくこと、また、映画祭後に作品を姫路市や公共施設・関係団体などに無償提供することで、姫路の観光資源のPRや、姫路市民のまちづくりへの関心を高める一助とすることを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

姫路の素晴らしさやまちの魅力が、短編の映像作品としてまとめることや、ひめじ短編国際映画祭で上映することにより、映画祭の来場者など姫路市民以外の方々にも広くアピールできる。

姫路城以外の「魅力あるひと（活動）」や「町並み、風景（郷土資産、歴史）」を発掘して映像作品として紹介することで、姫路市民に地元の町並みや景観の価値に気づいていただき、「景観の保全」や「活動支援」など、まちづくりに対する機運を盛り上げる。

完成した作品は、映画祭での上映後には無償提供するので、観光や景観保全のための映像素材として、公的施設で活用することができる。

（事業概要）

- 1 ドキュメンタリー作品の制作
- 2 告知用チラシ製作、配布
- 3 ドキュメンタリー作品の上映

※ ドキュメンタリー作品内容（町並みについての作品、ひとについての作品）



老若男女 会話と笑顔で散歩をしよう

地域福祉

（実施年度） 平成23年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 兵庫県若者らの自立を考える連絡会

（市の担当部署〈協働先〉） 市民局 市民参画部 市民活動推進課
健康福祉局 保健所 網干保健福祉サービスセンター

（事業の目的）

しゃべり場を作る事で以下の目的を達成する。

- 1 引きこもりがちな、年配者の休憩場所
- 2 趣味を作る情報発信場所
- 3 一言運動
- 4 地域の人々との異世代交流場所
- 5 そこで忘れない昔遊び、昔歌の伝承
- 6 子供から若者・年配者の接点作り

以上により、人と人とのふれ合いの接点作りに寄与することを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

自分たちが生まれ育んできた街の中を散歩し昔話が出来、自分が見守り、又見守られる、一人でも独居老人をなくし最後まで掌握する事が目標である。

（事業概要）

長椅子を設置することで目標とするしゃべり場の拠点とする。

- 1 長椅子について
 - （1）材料 天板は竹、脚は間伐材を使用
 - （2）規格 天板：100cm×30cm
脚高：40cm
- 2 啓発方法について
自治会、老人会との連携による周知
- 3 事業効果の確認方法
 - （1）月1回発行の網干区新在家便りで確認
 - （2）月1回発行のひまわり便りで確認



（事業総括・感想）

間伐材に竹を取り付けるまでに、若者、スタッフ、ボランティア達が一丸となり、何日もかかって磨き上げた。これがなかなか大変でした。

竹を取り付けてから、皆で座り心地を確かめ、設置場所で頭を打たないような工夫や、殺風景な椅子の周りに花を植えた竹花器を置き、ほっと寛ぐことのできる空間を作り上げました。

12月1日引き渡し時、たくさんの地域の方々に来て頂き、喜ばれ、うれしく思いました。

（実施年度） 平成23年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 コムサロン21

（市の担当部署〈協働先〉） 市民局 市民参画部 市民活動推進課
市民活動・ボランティアサポートセンター

（事業の目的）

これから市民活動を担う大学生を対象に、活動体験と今後の活動への仲間づくりにつながるインターン事業を行い、それにより、姫路市で活動する市民活動団体、しいては姫路市全域の市民活動活性化を図ることを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

〈期待される効果〉

- 1 ボランティア活動参加による活動団体の活性化
- 2 継続した参加呼びかけや受け入れ態勢の確保、学生ボランティア同士のネットワークの構築
- 3 学生同士でメンバーをサポートすることによるボランティアコーディネート力の向上
- 4 インターネットや携帯電話の電子端末サービスを利用した新しい受け入れ方法の検証
- 5 地域活動をテーマとした教育機関（大学）とのネットワークの構築



〈達成目標〉

- 1 参加者の継続した地域活動への参加
- 2 継続して参加希望者を受け入れることができる受入団体
- 3 インターネットや携帯電話のボランティア情報サービスの利用者数

（事業概要）

これから市民活動の担い手となる学生を対象に、地域の人と触れ合うきっかけづくり・活動を体験してもらえる「市民活動体験」と、今後の活動への仲間づくりプログラム「地域とつくる！学生ボラターン研修事業」を実施する。

- 1 実施期間 平成23年6月24日～平成24年1月31日
- 2 協力団体 姫路市内4大学、NPO法人等12団体、姫路市

（事業総括・感想）

受入先団体は体験希望者が参加することにより、ボランティア受入態勢の見直し、活動の幅が広がりメンバーの意識変化のきっかけにもつながった。

トライアル体験ということもあり、当日に参加キャンセルする参加者もいて連絡調整に苦労した。

今回の講座により、参加者は小規模なイベントから大規模なイベントまで幅広く活動体験する機会を提供することができた。地域団体、受入団体の発掘、大学とのネットワーク構築と連携、学生ボランティア活動についての知識の把握等様々な活動への基盤整備が行えた。反面、交通費や他の活動の問題等、今回で様々な課題が見えてきたので、それらの課題をできる範囲から解決していき、より多くの学生の方に地域で参加できる場の提供をしていきたい。

私も「B-1 グランプリ in 姫路」に 行きたいなあ！

自 由

（実施年度） 平成23年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 姫路地区手をつなぐ育成会

（市の担当部署〈協働先〉） 健康福祉局 福祉部 障害福祉課
農政経済局 観光交流推進室

（事業の目的）

食による地域おこしイベント「B-1 グランプリ in 姫路」をきっかけとして、障がい者が地域のイベントに参加できる環境づくりを行うことで、障がい者の社会・地域参加を促すと同時に、市民や全国に障がい者に優しいまち・姫路として認識してもらうことを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

障がいのある方は、ボランティアが個々の障がいに応じた色々なサポートをし、一緒に参加することで、安心して地域のイベントに参加できるという意識が芽生える。また社会・地域からの疎外感から解放され、「姫路」という地域に暮らし生活していることを再認識できる。

ボランティアは、今回の体験を通して、障がいのある方の特性・サポート方法を学び、改めてボランティアの力を認識し、障がいのある方と共に参加する大切さを学ぶ。

多くの障がいのある方とボランティアが参加することで、「障がいのある方に優しい地域・姫路」をPRできる。そしてこのイベントが姫路に住む人たちによる「障がいがあっても無くても安心した地域生活は送れる」街づくりの一歩となる。

（事業概要）

- 1 参加希望者から、状況や障がいの程度、必要なサポートの聞き取り
- 2 障がいのある方の状況や障がいの程度に応じたサポート体制を構築
- 3 参加ボランティアに対する研修の実施
- 4 事前の会場下見の実施
- 5 当日対応

（事業総括・感想）

ボランティア研修に、介助手法のほかにコミュニケーション講座を入れることで、「共に楽しむ」を大切にしたい。今回は、たくさんの笑顔と出会うことができました。

これが他の地域イベント時や普段の生活の中でできると、皆にとって住やすい街、姫路になっていくと思います。

今回は、会場設備の配慮等、姫路市との協働事業だからこそ出来たことがあります。さらに、協働先の担当者から積極的な働きかけがあったことも大きな成果でした。また、今回の障害者サポート体制に対して、次回 B-1 グランプリ開催都市より問い合わせを頂いたのも『障がいのある方にやさしい地域・姫路』のPR効果があったからこそだと思います。



生涯現役体操（ガンバルンバ体操）普及事業

地域福祉

（実施年度） 平成23年度

（実施団体） ガンバルンバ体操ひろめ隊

（市の担当部署〈協働先〉） 市民局 生涯現役推進部 生きがい推進課

（事業の目的）

子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の方に、いつでも気軽にどこでもできる「生涯現役ガンバルンバ体操」を普及させることで、市民の健康づくりを応援し、「生涯現役社会」の実現に貢献することを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

毎日気軽に健康づくりができる生涯現役ガンバルンバ体操を広く普及させることで、市民の皆さんの健康づくりに役立つ。また、体操教室を定期的を開催することで、高齢者の「出かける場所」ができ、受講生同士の交流も生まれる。

姫路市民はもちろん、市外や県外の方にも生涯現役ガンバルンバ体操を広めて、誰もが元気でいきいきと「生涯現役」で暮らせる社会にするのが目標である。

（事業概要）

- 1 「生涯現役ガンバルンバ体操」デモンストレーション
市内各地の自治会、婦人会、老人クラブや福祉施設などを訪問し、皆さんに生涯現役ガンバルンバ体操を体験していただく。
- 2 ガンバルンバ体操&サプライズ健康教室の開催
ひろめ隊によるガンバルンバ体操の実技指導と、毎回変わるゲスト講師による健康講座を開催する。
- 3 生涯現役ガンバルンバ体操リーダー養成講座
ガンバルンバ体操を指導できるリーダーを養成する講座を開催する。修了者には修了証を渡し、今後市やひろめ隊が実施する体操普及活動に協力してもらう。

（事業総括・感想）

平成22年2月よりひろめ隊の準備を始め、7月から活動を開始しました。

今年は、より一層活動の幅を広げようと、リーダー養成講座を開催し、「ひろめ隊に来てほしい」という要望にいつでも沿えるよう、体操を指導できるリーダーの養成に努めました。

この活動がコンスタントに続き、姫路の街全体が元気になることを希望します。



ひめじ“こみせまち”活性化プロジェクト

自 由

(実施年度) 平成23年度

(実施団体) ひめじ Re-店舗計画

(市の担当部署〈協働先〉) 農政経済局 商工部 産業振興課
都市局 まちづくり推進部 都市計画課

(事業の目的)

町家店舗を持ちたい人に対してチャレンジショップを提供し、出店への足がかりに
してもらおうとともに、ワークショップやシンポジウムを通して町家店舗の魅力を一般
の方々や町家所有者に発信することを目的とする。

(期待される効果又は達成目標)

具体的な再生事例をつなぎ合わせるとともに、実際にテナントを募集することで、
他の非活用町家への相乗効果があると考えている。また、テナントにとっても多額の
補修費を負担することなく、ビジネスをスタートさせることが可能であり、より多く
のテナントを募ることができると考えている。今まで具体性の欠けていた町家保存活
動がより具体性を持って動き始める活動である。

また、“こみせまち”が形成され、観光的魅力を持ち始めると、地域の商業地とし
ての価値が上がり町家を活用した店舗の出店が促進される。観光客に対して楽しい下
町散策が提供でき、良い町並みを残す機運がますます高まる。また、ゲストハウスの
出店も進んでおり、通過型観光地であった姫路を、滞在型観光地への変貌させる可能
性も秘めている。

(事業概要)

1 ワークショップによる改修工事

建具屋、左官、畳屋の職人などが講師となり、一般の方に対して改修体験の機会
を提供するもの。これにより、町家に対する興味をうながし、町家店舗の出店につ
なげる。

2 シンポジウムの開催

出店者、出店希望登録者によるシンポジウムを行い、活発な意見交換を通して町
家店舗への興味を促す。篠山の町家活用をリードするNPO法人町なみ屋なみ研究
所理事長 酒井宏一氏の基調講演を通して、夢を実現する過程を提案する。

(事業総括・感想)

計3回のワークショップを通して、回を追うご
とに息を吹き返していく建物に興味を持ってく
れる方々が増えてきました。また、建物を自分た
ちの手で直していくことに多くの共感を呼ぶこ
とができ、このプロジェクトの手ごたえを感じま
した。

シンポジウムは関係団体の姫路・町家再生塾と
共催事業として二部構成で開催しました。20名
近くの市民の皆さんに参加していただき、有意義
な時間を過ごすことができました。



荒廃竹林整備で発生する伐採竹を 利活用する事業

自 由

（実施年度） 平成23年度

（実施団体） 太市の郷

（市の担当部署〈協働先〉） 環境局 環境政策室

（事業の目的）

美しい竹林の里山風景を取り戻すため、伐竹集積物の減量化に焦点を絞った事業展開を図る。竹の様々な利活用提案で地域の活性化を促し、保全整備の活動を行うことで次代を担う子どもたちに夢と希望を与えられる懐かしい未来を創造していくことを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

山を侵食繁茂する竹被害は全国的な課題で、景観や災害上の問題となっています。当地がこの様な類例環境を持った他の地域に対しても、モデル的事業となる工夫提案活動を展開したい。

（事業概要）

伐採竹を利活用するための講座・ワークショップの開催

- 1 地域住民がその価値を共有できるよう「里歩きワークショップ」で景観探索を行う。
- 2 除伐した竹の有効活用を主テーマとする提案実習型の講座を開催する。



（事業総括・感想）

これまでの活動で伐採域が広がったことにより、伐り出した竹が大変な物量で整備地を埋め尽くす程になりました。活動では様々な問題の山積ですが、当面こなすべき重要課題として集積竹の減量化を図る必要性があります。

2月に『竹の利活用を考える！』フォーラム＋竹活用事例や試行商品の展示会を開催しました。多様な研究者と先進活動地のリーダーを講演パネラーに迎え、市民参画を呼びかけた催しを実行して、共に考える場づくりを行いました。

人が持続的に育んできた健全な里山維持は「農」の不採算など様々な要因があり、一朝一夕で解決するものではありません。今日の里山課題を広く市民に情報発信し、多くの人に関心を示してもらふ必要性を痛感しています。

竹林の風景が持つ清々しさや、自然豊かな里山を、子どもたちの体験学習の場としても活用するとともに、みどり豊かな里山を資源として捉え、都市生活者に共感を期する中で、地域の活性化を促していきたいと考え活動しています。



（実施年度） 平成23年度

（実施団体） 特定非営利活動法人 はなのいえ

（市の担当部署〈協働先〉） 市民局 市民参画部 市民活動推進課

（事業の目的）

地域で支えあい活動を行うためには、まず地域交流できる居場所づくりが必要であり、その居場所となる『地域サロン』を実際にモデル化して運営してみることで、今後の地域支えあい活動を行っていく上での参考とすることを目的とする。

（期待される効果又は達成目標）

東日本大震災という災害も踏まえて、地域で支えあい活動の必要性を改めて市民が考えるために必要な機会であると思う。実際にモデル活動を行ってみることで、市民がその必要性を感じ、これからの活動に対しての問題点の整理にもつながると思う。これらのことを検証した上で、市民が自らつながっていくことのできる『地域サロン』の実現に一步踏み出せると思う。

（事業概要）

地域サロンモデル事業として、次のことを行う。

- 1 開催場所（モデル地区）の選択
- 2 サロン開催準備
- 3 地域サロンの開催
- 4 実践報告会
- 5 反省会

（事業総括・感想）

当初の予定どおり開催候補事業所・地域への依頼を行ったが、地域コミュニティの必要性は感じているものの地域サロンの開催にまでは現状況では進みがたい地域もあり、まずは無理なく開催できる所から始めることにした。事業所の空きスペースや空き時間を利用して開催することで、地域サロンとはどんなものなのかを実感していただくことから始めることにした。このことで開催を考えている事業所や地域の方々には、イメージが出来てよかったという意見もいただき理解が深まるきっかけにもなった。この活動を通じてそれぞれのサロン計画が動き出し実現可能になっていった。

地域住民への説明会では、サロンの趣旨やこれからの必要性を理解していただき、住民主体の運営方法・ボランティアのあり方、地域の方へのアプローチの仕方なども一緒に考えていただくことができた。チラシを回覧で回していただいたり、隣保の集まりで地域サロンを利用していただくなどを通じて、運営を継続できる地域サロンを開催していくことが必要であり、この動きがこれからの地域コミュニティを作るうえで最も重要であると思った。



3 索引

・実施団体別事業名索引

・テーマ別事業名索引



実施団体別事業名 索引（実施団体５０音順・実施年度順）

団体名	年度	テーマ	事業名称	掲載頁
（特）アニマルメリーランド	H18	自 由	ドギーバッグを活用した動物愛護精神の涵養及び特色ある店舗活動の展開	—
Ecrans de Harima （エ克蘭・ドゥ・ハリマ）	H21	自 由	お城まつり 60 周年記念ドキュメンタリー作品の制作および上映	25
	H22	自 由	姫路城周辺の町並みとひとの魅力を伝える「短編ドキュメンタリー」の制作と上映	41
太市の郷	H21	自 由	「桜山公園」未整備エリアの荒廃竹林整備	27
	H22	環 境	荒廃した里山・竹林の保全整備と啓蒙活動事業	39
	H23	自 由	荒廃竹林整備で発生する伐採竹を利活用する事業	47
ガンバルンバ体操ひろめ隊	H22	自 由	生涯現役体操（ガンバルンバ体操）啓発応援事業	32
	H23	地域福祉	生涯現役体操（ガンバルンバ体操）普及事業	45
子どもミュージカル劇団 FUNKY キッズ	H18	自 由	盲導犬チャリティフェスティバル	—
（特）コムサロン21	H18	生涯現役	「生涯現役社会」市民講座（基礎コース）	—
	H19	観 光	ご当地名物「姫路おでん」の地域ブランド定着・普及事業	11
	H20	自 由	姫路市民活動アドバイザー派遣モデル事業	20
	H22	市民活動	姫路市市民活動きっかけづくりトライアル事業	38
	H23	市民活動	地域とつくる！学生ボラターン研修事業	43
情報センターふきのとう姫路	H21	自 由	若者らの自立を考える交流会	26
（特）スローソサエティ協会	H19	自 由	新しい姫路駅前に関する市民参画の場づくり	15
	H21	自 由	こどもたちが紡ぐ“未来のまちうち物語”	29
	H22	自 由	ひめままがつくる姫路らしさ満載「駅前サテライトミュージアム」社会実験	40
チームWeB	H19	自 由	車椅子バスケットボール教室と障がい者スポーツの啓発事業	12
	H20	自 由	車椅子バスケットボールを含む障がい者スポーツの啓発事業	23
	H22	市民活動	障がい者スポーツ参加型ボランティア市民講座	37
手ん子森	H21	自 由	「もうひとつのひめじ」発信ワークショップ	31
（特）はなのいえ	H22	福 祉	「地域サロン」づくり講座	36
	H23	地域福祉	地域サロン実践モデル事業	48
播磨の黒田武士顕彰会	H20	観 光	黒田の殿様鳥絵展＆黒田24騎刀剣・武具甲冑展	16
	H22	自 由	播磨の黒田武士24騎里帰りパレード	34
姫路古墳ロード実行委員会	H21	自 由	姫路古墳ロード花 full 郷事業	24
	H22	自 由	姫路古墳ロードを巡る健康ウォーキング事業	33
（特）姫路コンベンションサポート	H18	自 由	大道芸を利用したおもてなしの町づくりプロジェクト	—
	H19	自 由	笑顔のまちづくりフォーラムの開催	13
	H20	自 由	「笑いのまちをめざして～笑いを科学する」フォーラムの開催	22
	H21	自 由	ひめフォト	30

団体名	年度	テーマ	事業名称	掲載頁
姫路城下町街づくり協議会	H20	自 由	お菊虫プロジェクト	21
(特) 姫路地区手をつなぐ育成会	H23	自 由	私も「B-1 グランプリ in 姫路」に行きたいなあ!	44
ひめじ Re-店舗計画	H23	自 由	ひめじ“こみせまち”活性化プロジェクト	46
(特) 兵庫県若者らの自立を考える連絡会	H23	地域福祉	老若男女 会話と笑顔で散歩をしよう	42
見野古墳群保存会	H19	観 光	歴史的文化遺産「見野の郷」おもてなし事業	10
	H20	自 由	ふれあいと共生の「見野の郷」魅力アップ事業	19
(特) ゆめさきプロジェクト	H20	観 光	ひめじ田宴アート 収穫祭	17
	H21	姫 路 城	ひめじ田宴アート2009	28
	H22	自 由	ひめじ田宴アート2010	35
歴史と出会えるまちづくり船場城西の会	H18	観 光	船場城西歴史地区ぶらぶら(史跡、老舗、伝統工芸を訪ねて)	—
	H19	自 由	芸術文化振興 文化財活用プロジェクト in 船場御坊	14
	H20	観 光 ・ 国 際 化	ウェルカム船場城西歴史地区	18

テーマ別事業名 索引 (テーマ順・事業名50音順)

テーマ	事業名称	団体名	年度	掲載頁
市民活動	障がい者スポーツ参加型ボランティア市民講座	チームWeB	H22	37
	地域とつくる! 学生ボラターン研修事業	(特) コムサロン21	H23	43
	姫路市市民活動きっかけづくりトライアル事業	(特) コムサロン21	H22	38
観 光 ・ 国 際 化	ウェルカム船場城西歴史地区	歴史と出会えるまちづくり船場城西の会	H20	18
生涯現役	「生涯現役社会」市民講座(基礎コース)	(特) コムサロン21	H18	—
環 境	荒廃した里山・竹林の保全整備と啓蒙活動事業	太市の郷	H22	39
福 祉	「地域サロン」づくり講座	(特) はなのいえ	H22	36
地域福祉	生涯現役体操(ガンバルンバ体操)普及事業	ガンバルンバ体操ひろめ隊	H23	45
	地域サロン実践モデル事業	(特) はなのいえ	H23	48
	老若男女 会話と笑顔で散歩をしよう	(特) 兵庫県若者らの自立を考える連絡会	H23	42
観 光	黒田の殿様烏絵展 & 黒田24騎刀剣・武具甲冑展	播磨の黒田武士顕彰会	H20	16
	ご当地名物「姫路おでん」の地域ブランド定着・普及事業	(特) コムサロン21	H19	11
	船場城西歴史地区ぶらぶら(史跡、老舗、伝統工芸を訪ねて)	歴史と出会えるまちづくり船場城西の会	H18	—
	ひめじ田宴アート 収穫祭	(特) ゆめさきプロジェクト	H20	17
	歴史的文化遺産「見野の郷」おもてなし事業	見野古墳群保存会	H19	10
姫 路 城	ひめじ田宴アート2009	(特) ゆめさきプロジェクト	H21	28

テーマ	事業名称	団体名	年度	掲載頁
自由	新しい姫路駅前に関する市民参画の場づくり	(特)スローソサエティ協会	H19	15
	笑顔のまちづくりフォーラムの開催	(特)姫路コンベンションサポート	H19	13
	お菊虫プロジェクト	姫路城下町街づくり協議会	H20	21
	お城まつり 60 周年記念ドキュメンタリー作品の制作および上映	Ecrans de Harima (エ克蘭・ドゥ・ハリマ)	H21	25
	車椅子バスケットボール教室と障がい者スポーツの啓発事業	チームWeB	H19	12
	車椅子バスケットボールを含む障がい者スポーツの啓発事業	チームWeB	H20	23
	芸術文化振興 文化財活用プロジェクト in 船場御坊	歴史と出会えるまちづくり 船場城西の会	H19	14
	荒廃竹林整備で発生する伐採竹を利活用する事業	太市の郷	H23	47
	こどもたちが紡ぐ“未来のまちうち物語”	(特)スローソサエティ協会	H21	29
	「桜山公園」未整備エリアの荒廃竹林整備	太市の郷	H21	27
	生涯現役体操（ガンバルンバ体操）啓発応援事業	ガンバルンバ体操ひろめ隊	H22	32
	大道芸を利用したおもてなしの町づくりプロジェクト	(特)姫路コンベンションサポート	H18	—
	ドギーバッグを活用した動物愛護精神の涵養及び特色ある店舗活動の展開	(特)アニマルメリーランド	H18	—
	播磨の黒田武士24騎里帰りパレード	播磨の黒田武士顕彰会	H22	34
	姫路古墳ロード花 full 郷事業	姫路古墳ロード実行委員会	H21	24
	姫路古墳ロードを巡る健康ウォーキング事業	姫路古墳ロード実行委員会	H22	33
	ひめじ“こみせまち”活性化プロジェクト	ひめじ Re-店舗計画	H23	46
	姫路市民活動アドバイザー派遣モデル事業	(特)コムサロン21	H20	20
	姫路城周辺の町並みとひとの魅力を伝える「短編ドキュメンタリー」の制作と上映	Ecrans de Harima (エ克蘭・ドゥ・ハリマ)	H22	41
	ひめじ田宴アート2010	(特)ゆめさきプロジェクト	H22	35
	ひめフォト	(特)姫路コンベンションサポート	H21	30
	ひめままがつくる姫路らしさ満載「駅前サテライトミュージアム」社会実験	(特)スローソサエティ協会	H22	40
	ふれあいと共生の「見野の郷」魅力アップ事業	見野古墳群保存会	H20	19
	盲導犬チャリティーフェスティバル	子どもミュージカル劇団 FUNKY キッズ	H18	—
	「もうひとつのひめじ」発信ワークショップ	手ん子森	H21	31
	若者らの自立を考える交流会	情報センターふきのとう姫路	H21	26
	私も「B-1 グランプリ in 姫路」に行きたいなあ！	(特)姫路地区手をつなぐ育成会	H23	44
	「笑いのまちをめざして～笑いを科学する」フォーラムの開催	(特)姫路コンベンションサポート	H20	22

提案型協働事業事例集

平成 25 年 2 月発行

編 集・発 行

姫路市 市民局 市民参画部 市民活動推進課

姫路市安田四丁目 1 番地

電 話 079-221-2737

F A X 079-221-2758